

インマヌエル中目黒キリスト教会

2015年8月2日聖日礼拝

使徒の働き連講58

「悔い改めと信仰を主張」

使徒の働き20章1節-24節

竿代照夫牧師



- 1 騒ぎが治まると、パウロは弟子たちを呼び集めて励まし、別れを告げて、マケドニヤへ向かって出発した。
- 2 そして、その地方を通り、多くの勧めをして兄弟たちを励ましてから、ギリシヤに来た。
- 3 パウロはここで三か月を過ごしたが、そこからシリヤに向けて船出しようというときに、彼に対するユダヤ人の陰謀があったため、彼はマケドニヤを経て帰ることにした。
- 4 プロの子であるベレヤ人ソパテロ、テサロニケ人アリストタルコとセクンド、デルベ人ガイオ、テモテ、アジヤ人テキコとトロピモは、パウロに同行していたが、

- 5 彼らは先発して、トロアスで私たちを待っていた。
- 6 種なしパンの祝いが過ぎてから、私たちはピリピから船出し、五日かかってトロアスで彼らと落ち合い、そこに七日間滞在した。
- 7 週の初めの日に、私たちはパンを裂くために集まった。そのときパウロは、翌日出発することになっていたので、人々と語り合い、夜中まで語り続けた。
- 8 私たちが集まっていた屋上の間には、ともしびがたくさんともしてあった。

- 9 ユテコというひとりの青年が窓のところに腰を掛けていたが、ひどく眠けがさし、パウロの話が長く続くので、とうとう眠り込んでしまって、三階から下に落ちた。抱き起こしてみると、もう死んでいた。
- 10 パウロは降りて来て、彼の上に身をかがめ、彼を抱きかかえて、「心配することはない。まだいのちがあります」と言った。
- 11 そして、また上がって行き、パンを裂いて食べてから、明け方まで長く話し合っ、それから出発した。
- 12 人々は生き返った青年を家に連れて行き、ひとかたならず慰められた。

- 13 さて、私たちは先に船に乗り込んで、アソスに向けて出帆した。そしてアソスでパウロを船に乗せることにしていた。パウロが、自分は陸路をとるつもりで、そう決めておいたからである。
- 14 こうして、パウロはアソスで私たちと落ち合い、私たちは彼を船に乗せてミテレネに着いた。
- 15 そこから出帆して、翌日キヨスの沖に達し、次の日サモスに立ち寄り、その翌日ミレトに着いた。

- 16 それはパウロが、アジアで時間を取られないようにと、エペソには寄港しないで行くことに決めていたからである。彼は、できれば五旬節の日にはエルサレムに着いていたい、と旅路を急いでいたのである。
- 17 パウロは、ミレトからエペソに使いを送って、教会の長老たちを呼んだ。
- 18 彼らが集まって来たとき、パウロはこう言った。「皆さんは、私がアジアに足を踏み入れた最初の日から、私がいつもどんなふうにあなたがたと過ごして来たか、よくご存じです。

- 19 私は謙遜の限りを尽くし、涙をもって、またユダヤ人の陰謀によりわが身にふりかかる数々の試練の中で、主に仕えました。
- 20 益になることは、少しもためらわず、あなたがたに知らせました。人々の前でも、家々でも、あなたがたを教え、
- 21 ユダヤ人にもギリシヤ人にも、神に対する悔い改めと、私たちの主イエスに対する信仰とをはっきりと主張したのです。
- 22 いま私は、心を縛られて、エルサレムに上る途中です。そこで私にどんなことが起こるのかわかりません。

- 23 ただわかっているのは、聖霊がどの町でも私にはっきりとあかしされて、なわめと苦しみが私を待っていると言われることです。
- 24 けれども、私が自分の走るべき行程を走り尽くし、主イエスから受けた、神の恵みの福音をあかしする任務を果たし終えることができるなら、私のいのちは少しも惜しいとは思いません。

説教

使徒の働き連講58

「悔い改めと信仰を主張」

使徒の働き20章1節-24節

竿代照夫師



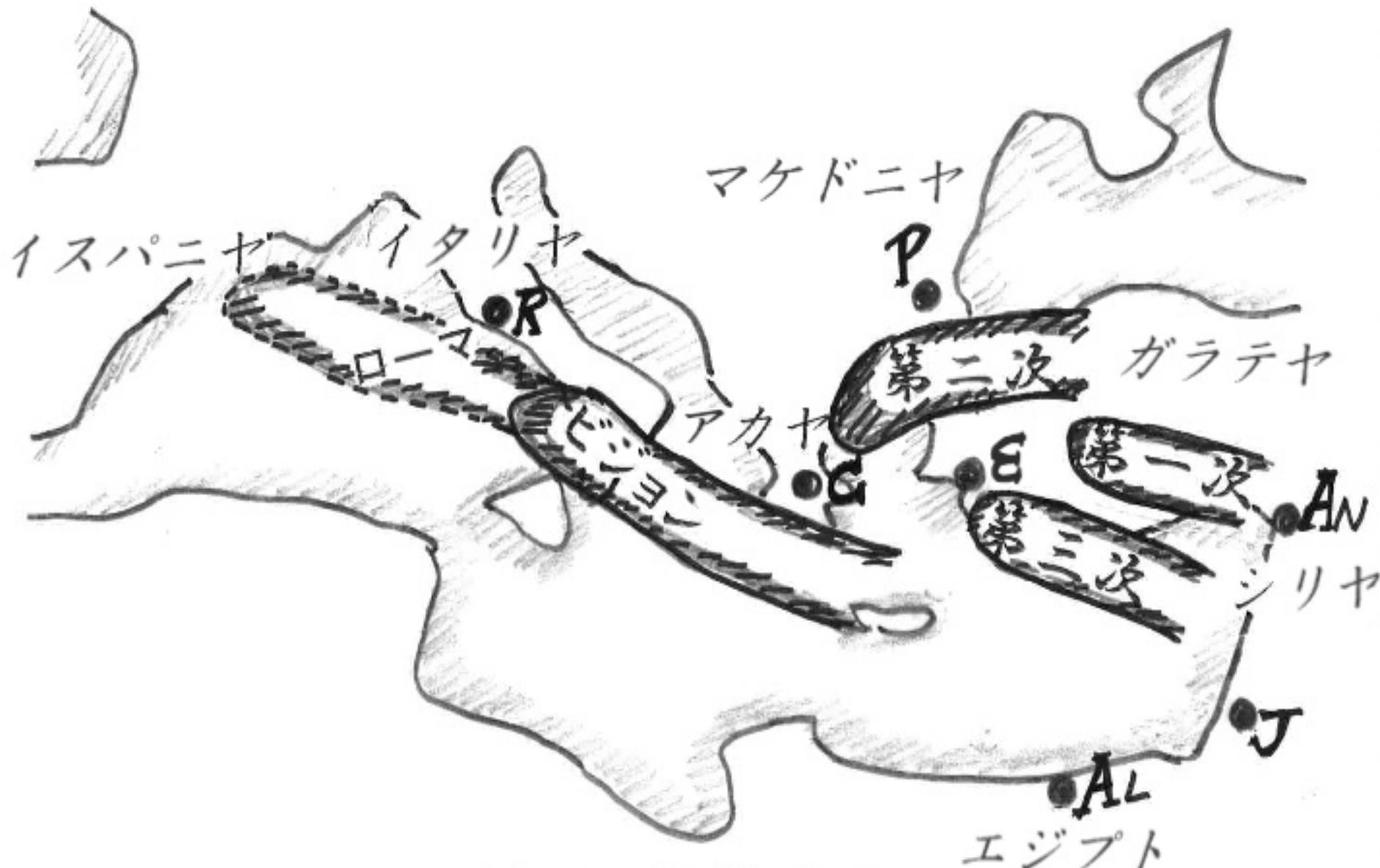
主テキスト

「ユダヤ人にもギリシヤ人にも、
神に対する悔い改めと、私たちの主イエスに
対する信仰とをはっきりと主張したのです。」

(使徒の働き 20:21)

前回のテーマ:「壮大な宣教ビジョン」
(地図 参照)

- ・エペソ伝道の終了
- ・宣教計画(マケドニヤ→アカヤ→エルサレム→ローマ→イスパニヤ)



パウロの伝道旅行

A . エペソ = マケドニヤ往復 (1 - 16 節)

1 . マケドニヤ・ギリシャ (アカヤ) 訪問 (1 - 6 節)

- ・マケドニヤへの旅 (地図 参照) :

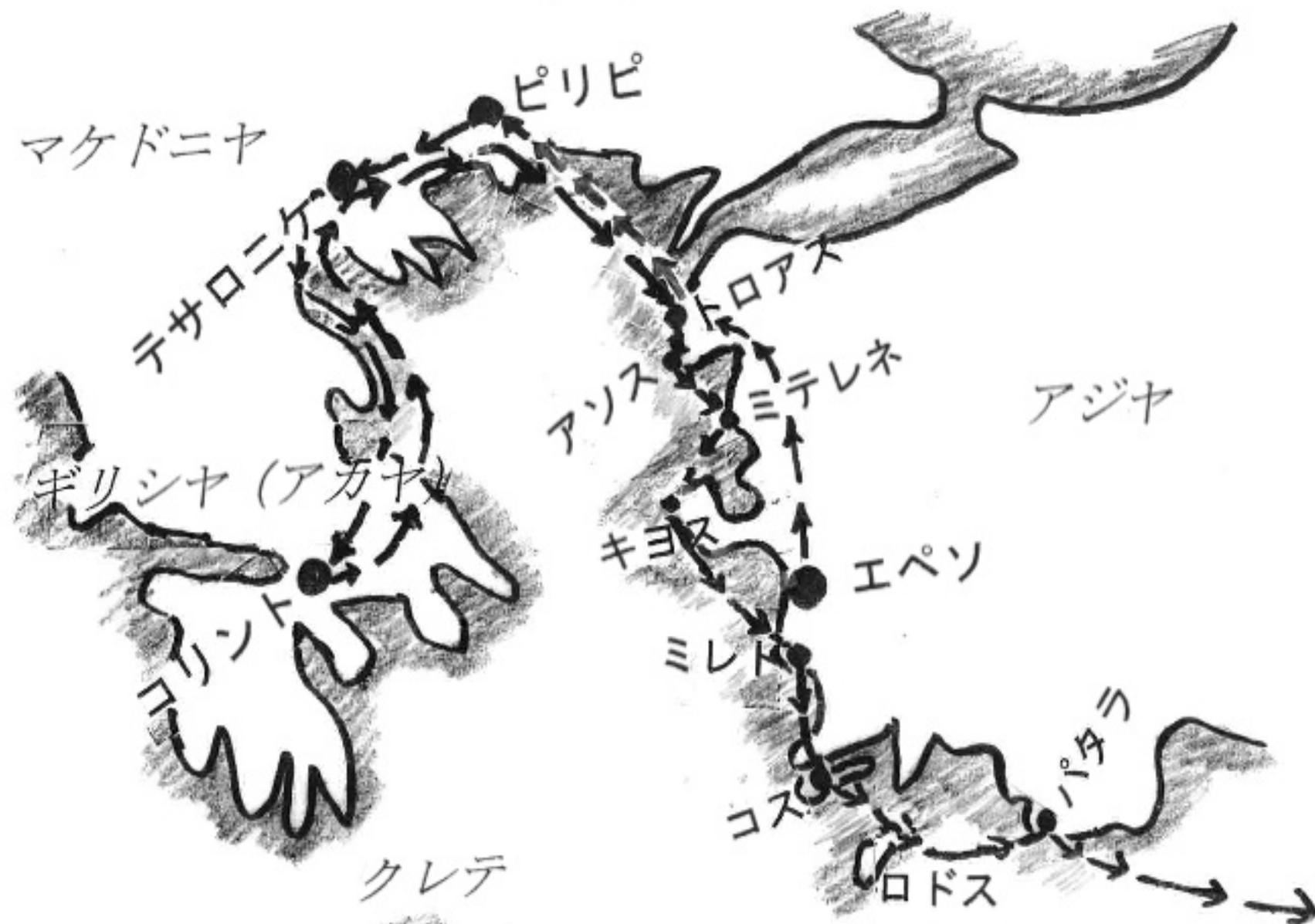
 - トロアス、ピリピでの足踏みと理由

- ・ギリシャでの滞在 :

 - コリント教会を激励、ローマ書執筆

- ・マケドニヤ經由シリヤへ :

 - ユダヤ人の陰謀ゆえに迂回、トロアスで合流
(AD 56年4月頃)



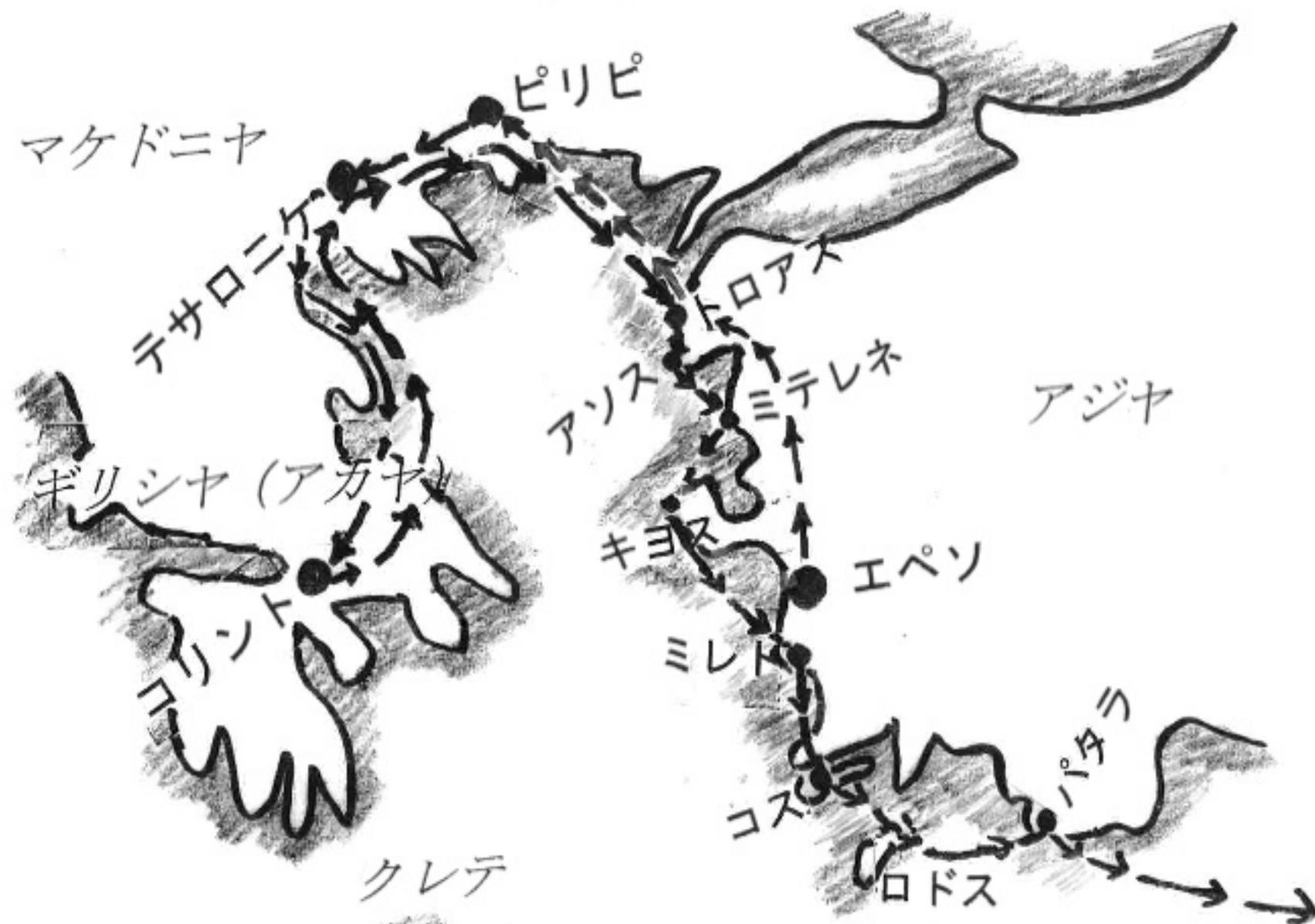
パウロ第三次伝道旅行の帰途

2. トロアスでのエピソード(7 - 12節)

- ・夜中の集会
- ・ユテコの落下と奇跡
- ・集会の再開

3. ミレトに到着 (13 - 16 節)

- ・ 陸路と海路に別れてアソスに
(地図 再度参照)
- ・ ミテレネ→キヨス→サモス→ミレト:
ミレトはアジヤ第二の町
- ・ エペソに寄港しない理由:
道を急いでいた(ペンテコステをエルサレムで)
以前の騒動の再燃を避ける



パウロ第三次伝道旅行の帰途

B. ミレトでの告別説教(17 - 41節)

1. エペソ伝道の回顧(17 - 21節)

- ・エペソ教会長老を招集:
ミレト—エペソ間は50km
- ・エペソでの伝道姿勢を証し
- ・謙遜の限りと涙
- ・明確さ:
「益になることは、少しもためらわず」
- ・公的説教と個人的教え

- ・福音の中心を「はっきりと主張」(= 公に宣言、完全に証言)
- ・神への悔い改め：
ユダヤ人もギリシャ人も神への方向転換が必要
- ・キリストへの信仰：
キリストの贖いへの信仰(ローマ1:16)

2. 来たるべき危険を覚悟(22 - 24節) = 次週

終わりに

福音の中心をしっかりと捉え、それを証ししよう